令和４年５月１３日
相模原市発表資料

新型コロナウイルス感染症の後遺症に関する調査報告書の公表について

新型コロナウイルス感染症に罹患した市民の方を対象にアンケート調査を実施し、症状の経過の分析等をまとめた「新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ－１９）罹患後症状（後遺症）に関する調査報告書」を公表します。

今回の調査結果を踏まえ、神奈川県や市内医療関係団体等との連携をさらに図りながら、後遺症に悩む市民の方へのサポートにつなげていきます。

１　調査期間

令和３年１２月１日から１２月２０日まで

２　調査対象者等

・　令和３年８月に新型コロナウイルス感染症の陽性が判明した方で、療養期間中に相模原市に居住し、療養終了後、１か月以上経過した方
・　上記条件を満たす者から無作為抽出した１，０００人にアンケート実施に関する通知を郵送し、市ホームページのウェブアンケートシステム等を通じて回答を収集
・　回答数２３５人（回答率２３．５％）

３　報告書の概要

別添概要版のとおり

※　調査報告書の本編は、市ホームページに掲載します。

https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/kenko/kansenyobo/1019910/1024321.html

【問合せ先】
感染症対策課
電話　042-769-8260

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)罹患後症状(後遺症)に関する調査報告書の概要

調査の目的

新型コロナウイルス感染症の罹患者を対象に、発症時・療養終了時・療養終了１か月後の症状の経過と、その症状に伴う受診・相談行動を把握し、罹患後症状（後遺症）への適切な対応や、感染予防の啓発等に役立てるために調査を実施した。

調査概要

【調査期間】令和３年 12 月１日～12 月 20 日

【調査方法】

調査実施に係る通知を発送し、ウェブアンケートシステムを用いて回答を収集

(回答率：23.5%)

【対象者】

・新型コロナウイルス感染症の療養期間中に相模原市に居住

・療養終了後１か月以上経過

・令和３年８月に陽性判明

【回答者属性】

（性別）男性:46.4%　女性:53.6%(n=233)

（年代）10 歳未満:3.4% 10 代:12.3% 20 代:17.4% 30 代:14.9% 40 代:22.6%
50 代:23.8% 60 代:2.6% 70 代:2.6% 80 代:0.4% (n=235)

【罹患後症状（後遺症）とは】

新型コロナウイルス感染症（COVID‐19）罹患後、他に明らかな原因が無く持続する症状とした。本報告では、療養終了１か月以後の症状を罹患後症状（後遺症）と定めた。

【結果】

陽性判明日に症状を呈した割合は 92.8%であり、最も多い症状は発熱（204 人）、次いで疲労感・倦怠感が（126 人）であり、症状を呈した割合は女性（55.1%）の方が男性（44.9%）より多かった。

療養終了時に症状を呈した割合は 66.8%であり、陽性判明日より減少していた。療養終了時の症状は嗅覚障害（98 人）、味覚障害（87 人）が多く、次いで疲労感・倦怠感（68 人）であった。

療養終了後１か月後に症状を呈した割合は 51.1%であり、療養終了時より減少していた。療養終了後１か月後の症状は、嗅覚障害（71 人）、味覚障害（54 人）、疲労感・倦怠感（30 人）が多かった。

症状は時間の経過とともに有症状者数が減少していく下降型、療養終了日に増加するが、療養終了後１か月後に減少する山型、療養終了後に増加する上昇型に分類することが出来た。下降型の代表的なものとして発熱や疲労感・倦怠感、山型の代表的なものとして嗅覚・味覚障害、上昇型の代表的なものとして脱毛が挙げられる。

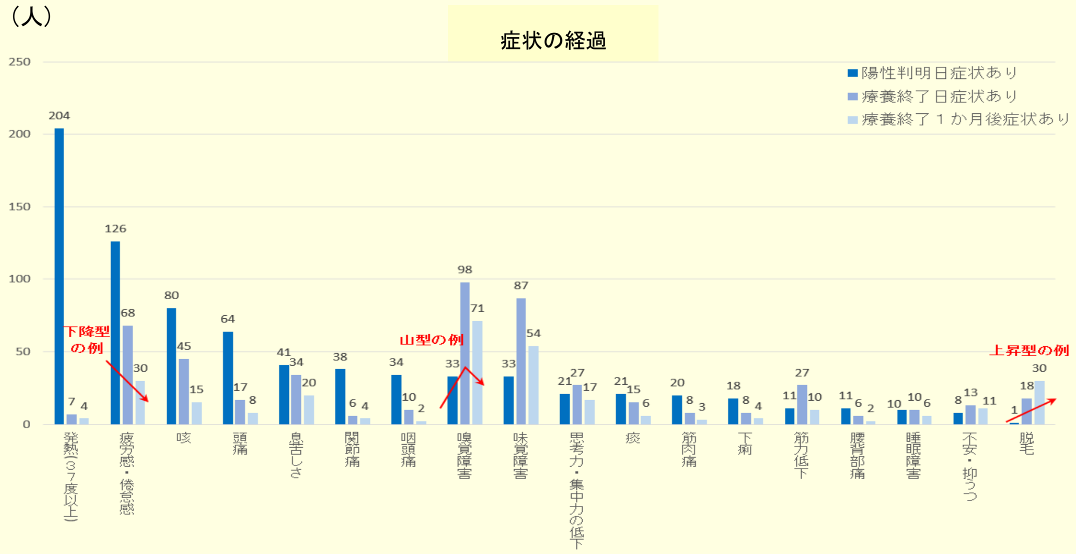
罹患後症状（後遺症）について受診した人の割合は 22.6%、受診しなかった人の割合は 77.4%であり、受診しなかった理由のうち、87.2%の人は無症状、又は軽症だった為であるが、10.3%の人は受診先が不明だった為と回答している。

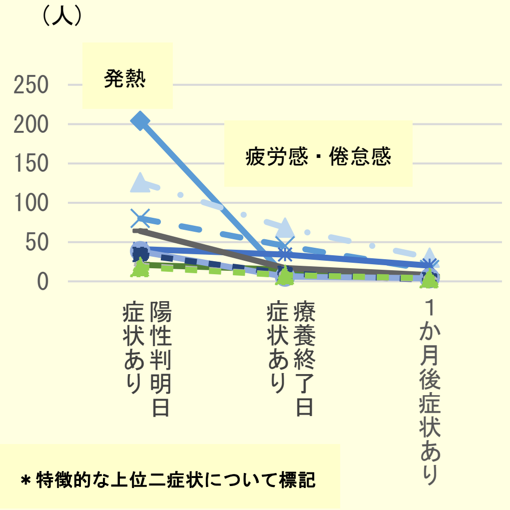
罹患後症状（後遺症）はいまだ明らかになっていないことも多いが、日常生活や仕事・学業等に支障がでることもあり、困りごとが生じた際には、速やかに市民が相談先に繋がるよう、環境を整備するとともに、啓発を行う必要がある。

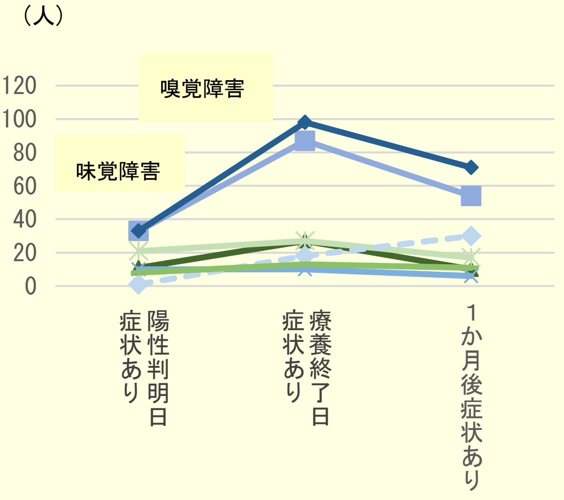
【概要版】

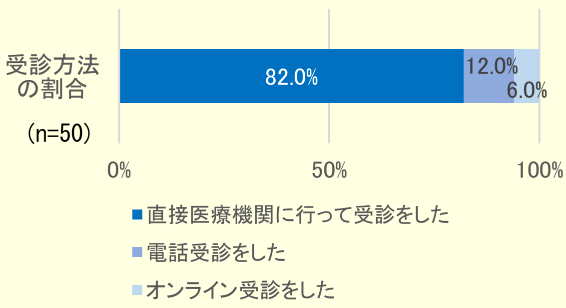
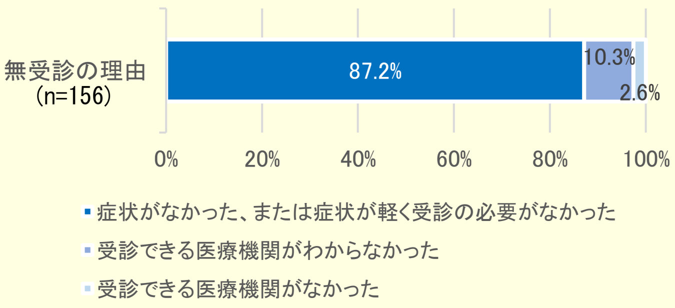
症状・後遺症の傾向別類型

・症状を時間の経過とともに有症状者数が減少していく「下降型」、療養終了日に増加するが、療養終了後１か月後に減少している「山型」、増加していく「上昇型」の３類型に分類







罹患後症状（後遺症）に関する医療機関の受診について

・後遺症について医療機関を受診した人は 22.6%、受診しなかった人が 77.4%
・受診した人は直接医療機関を受診した人が多く、電話受診・オンライン受診の利用率は低い
・受診しなかった人の理由は、症状がない又は軽微だったため、受診の必要性を感じなかった